

## 麻酔に関する注意と説明

### 麻酔について

麻酔とは、痛みを取り除き、血圧や脈拍、呼吸や体温など全身状態を管理し、安全に手術を行える状態にすることを目的とします。動物は痛みを除いても手術の間じっとしていることは難しく、また、手術への不安や恐怖心を軽減するため、局所麻酔単独で手術を行うことはまれで、特殊な場合を除き全身麻酔を施行します。

### 麻酔前の注意

指定の時間以降の絶食絶水を必ず守ってください。万が一、守られていない場合、窒息や肺炎の原因となる可能性があります。この際、手術は中止または延期となります。当日の中止または延期の場合、手術準備に費用がかかるためキャンセル料が発生することをご了承ください。キャンセル料の目安 ¥3000～

### 麻酔前投薬

動物を落ち着かせたり、全身麻酔薬の投与量を減らしたり、唾液分泌や胃腸運動を抑制したりして、全身麻酔をかけやすくします。

### 全身麻酔

落ち着いた状態の動物に血管から短時間型の全身麻酔薬を注射し眠らせます。眠った後、気管にチューブを挿入してガス麻酔薬を投与し続け、手術が終わるまで維持します。

### 麻酔に対する合併症

嘔吐がみられることがあります。薬品やゴム製品に対するアレルギーやアナフィラキシーショックがみられることがあります。呼吸停止や場合により心停止する事があります。

### 《麻酔法の変更の可能性、麻酔の安全性》

麻酔法は、状況の変化により、より安全な麻酔法に変わる可能性があります。

どんな手術の麻酔であっても動物の病状、年齢、栄養状態などによって、また、一見健康に見える場合であっても予測もできないいろいろな合併症が発生することがあります。ときには、重篤な合併症によって回復が遅れたり、死亡にいたることも、1万例に1例の割合で実際にはあります。

麻酔・手術中に万が一、不測の事態が起こった場合には速やかに、動物にとって最善の治療を行います。飼い主の方に説明し、同意を得た上で必要な処置・治療を行うことが基本ですが、緊急時には救命処置を優先させ、事後に説明させていただくこともあることをご了解ください。